



今年はアビラの聖テレジアが生まれて五百年。それを祝つて作られたカードの裏には「あなたのためのために私は生まれた」という彼女の言葉がある。

これを見て思い出したのは、フランシスコ・サンchezの言葉だ。

聖テレジアはスペイン中部のアビラで一五一五年に生まれる。サビエルが生まれた九年後だ。

約五百年前のヨーロッパはアメリカ大陸の発見、宗教改革など、人々の世界観、価値観が大きく変動した。

没後の一六二二年、テレジアはバチカンからサビエル、ロヨラとともに「聖人」の称号を与えられる。さらに三百五十年後の一九七〇年には「教会博士」とされる。このことは中世に生きた聖テレジアの靈性が今も生き続いていることの一つの証と言えよう。

そんな時代を背景に、テレジアは二十歳でカルメル会という女子修道会に入会する。当時、修道

## 聖テレジア生誕五百年

ホスピタリティ番外編(下)



443

藤屋 倪士  
(下松市幸ヶ丘)

主なる神を賛美し、敬い、伝えるためであり、することによって、自分の靈魂を救うためである

二人とも神との交わりを体験した。その中から生まれたこの言葉は、志同じくする何万人を超える会員たちに受け継がれ、五百年の時を経た今も生き続けている。それはそこに真理があるからではあるまい。

聖テレジアはスペイン中部のアビラで一五一五年に生まれる。サビエルが生まれた九年後だ。

約五百年前のヨーロッパはアメリカ大陸の発見、宗教改革など、人々の世界観、価値観が大きく変動した。

そんな時代を背景に、テレジアは二十歳でカルメル会に入会する。当時、修道

院はやや女性の社交場的な傾向があり、テレジアも神以外のものによって自らを満たそうとした。しかし三十九歳の時、受難のキリスト像前で回心、神との出会いを体験する。

四十七歳で修道会を改革する決意をし、跣足(せんそく=裸足)カルメル会を創立。以後十五年間、スペイン各地に十五の女子修道院と二つの男子跣足カルメル会を創立する。

その一方で、神との出会いの靈的体験をもとに「完徳の道」「靈魂の城」などの著作を発表し、混沌とした時代に大きな影響を与えた。

没後の一六二二年、テレジアはバチカンからサビエル、ロヨラとともに「聖人」の称号を与えられる。さらに三百五十年後の一九七〇年には「教会博士」とされる。このことは中世に生きた聖テレジアの靈性が今も生き続いていることの一つの証と言えよう。

山口市のカルメル会の聖堂



10年前、退任報告に山口市のカルメル会を訪れた時の写真(面会室で)

日本には一九三三年、東京に最初の跣足カルメル会の修道院が建てられ、現在、女子が九つ、男子四つの修道院がある。山口市仁保の女子カルメル会は一九七九年(S54)に日本で七番目の修道院として建てられた。幸運にも創立当初から親しくして、ラジオ番組「祈りの人たち、道院でカルメル修道会元十五人のカルメリット」を特別の計らいで制作させてもらい、それが横浜の放送ライブラーに保管されていることは私の数少ない誇りの一つだ。

そして今、山口のカルメリットを通して聖テレジアの靈性に少しでも触れる。本当のホスピタリティは、お互いが神に創られた、神から愛された存在であると信じる時、不動のものとなるのではないだろうか。